

ネギとアスパラと私

東白川4Hクラブ

沼野 将美（ぬまの まさみ）



皆さんこんにちは。東白川4Hクラブで活動をしている沼野将美と申します。私は、一昨年、地元棚倉町に戻り就農いたしました。主な作付けとして、秋冬ネギとアスパラガスをメインに活動しています。

まず始めに、私が就農したきっかけをお伝えしたいと思います。私が大学1年の秋、父が病気で入院しました。父は農家をしており、稲刈りで非常に忙しい時期でした。そこで私は大学を休学し、稲刈りの為帰省いたしました。初めて乗るコンバイン。休みなしで稲を刈る毎日。夜遅くまで続く糶摺り作業。そしてたまに戯れるカエルやトンボ。(笑)こういった経験をし、農業の大変さ、そして、仕事を終えた後の大きな達成感というものを得ることができました。その後大学を卒業し、東京で就職しましたが、ただただ働く仕事に違和感を持ち、そして、自分のやりたい仕事は何か、と、自分自身と向き合い、大学時代の稲刈りの経験が頭に思い浮かびました。もう一度あの達成感を味わいたい。そしてあの自然とひとつになる喜びを感じたい…そう考えた私は農業の道を選ぶことを決断したのです。

さて、こうして就農した私ですが、すぐに農業の洗礼を受けることとなりました。それは、自然です。農業は自然との闘いといいます。就農1年目の年は、非常に雨の多い年となりました。雨で地面がぬかるみ、ネギの定植や土寄せが行えず、アスパラハウスの建築も遅れるなど、予定が狂わされることが多々ありました。アスパラハウスの建築が遅れたことで、7月を過ぎてのアスパラの定植を余儀なくされ、さらに、ゲリラ豪雨によりハウスが冠水するなど、天候に悩まされました。これこそが自然との闘いという意味なのだといふに痛感いたしました。

さて、ここで、就農して3年目、感じたことをお伝えしたいと思います。

まずは、ネギを栽培していて感じた事です。わたしは1年目に大きな失敗をいたしました。それは、ネギの軟白部が規格よりも短く、B級品を多く出してしまったことです。理由は、土寄せが不十分であったからだと考えられます。畑の表面下部の地層が固く、機械ではうまく土寄せができなかったのです。そこで、2年目は、余った籾殻を土寄せに使用してみました。その結果B級品の数が激減し、前年度を大きく上回る出荷ができました。地面の固さを違う方法でカバーする。そういった独創的な考えを持つことができる。これこそが農業の楽しさなのだと感じました。

次にアスパラを栽培して感じたことです。アスパラは2年間株の養成を行います。その間、害虫・病気との闘いが非常に大変でした。農業を始めたばかりの私には、害虫・病気を見極めることが難しく、病気が入っても気づくのが遅く、害虫の種類・名前もわからず農薬の使用がいつも遅くなってしまいました。しかし、3年目を迎えた今年は、害虫・病気の見極めができるようになりました。そして、適期農薬散布が行えたのではないかと思います。そこで、農家とは、経験と知識が結果に結びつく、職人業なのだといふは感じました。

就農したことで、農業の大変さ、難しさ、そして、楽しさと感じるものが色々ありました。先輩の農家さんから、「農業は日々勉強で、知らないことも多く、新しい発見が次々と出てくる」と伺っております。これから先、勉強することはたくさんあります。経験そして知識を深め、福島発の農業を率先できる農業者になっていきたいと思っております。

最後となりましたが、私の気持ちをまとめた歌がございます。この歌を歌って終わりとさせていただきます。

(歌詞)

ネギとアスパラと私

愛するみんな(消費者・家族・仲間)のため

毎日育てていたいから～

野菜高く買ってね

外国産よりも、日本の野菜を～